

作物名：水稲

病害虫名：白葉枯病（病原：*Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae*）



白葉枯病の病徴

1 被害の特徴と診断のポイント

発病すると、田一面が白くなり、遠くからでもわかるようになる。葉の縁辺部から波形の白い病斑が現れ、先の方からしだいに枯れてくる。葉の中央部でも縦に長い黄白色の縞ができることもある。台風の後などに、急にまん延することがある。稔実が害されて、普通でも20%、ひどいときには40%内外の減収にもなる。

幼苗の場合には、株全体が萎凋して枯れることもあり、急性萎凋型の病状となる。

病原は細菌で、病葉を切断し水につけると切り口から菌泥が漏出する。朝夕の湿度の高い時間には、葉縁の病斑からも同様に漏出する。

2 伝染源及び伝染方法

種もみ、被害わら、刈り株及び土壌などでも越冬することが考えられるが、翌年の発生に関係が深いのは、畦畔や水路に自生する雑草(特にサヤヌカグサやエゾノサヤヌカグサなどの根)について越冬したものである。

この細菌は、かんがい水などと一緒に流れて水田に流入し、風で飛ばされて伝搬する。イネの葉縁にある水孔や傷から侵入する。

台風などの雨を伴った強風で、細菌が遠くまで吹き飛ばされ、葉が擦れ合って傷ができると、広範囲に急激に発病する。

3 発病・伝染好適条件

- ・ 浸水しやすい苗代
- ・ 窒素過多で、過繁茂な生育

4 防除方法

(1) 耕種的防除

- ・ 耐病性の強い品種を用いる。
- ・ 排水路を整備し、深水や浸水しないようにする。
- ・ 多窒素栽培を避ける。

(2) 化学的防除

- ・ 常発地や浸冠水、台風通過のあとには粒剤を散布する。

5 出典

- (1) 参考文献：農業総覧 原色病害虫診断防除編1（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

(2021年3月改訂)